



本気・根気・元気

令和8年1月16日発行【第9号】

発行者：佐賀市立昭栄中学校

校長 川副 紀子

学校教育目標：夢に向かって たくましく 挑戦する生徒の育成 - 自律・協働 -

生徒会スローガン：初志貫徹～想いをカタチに～

謹んで新年のお喜びを申し上げます

本年は午年です。馬は前を向いて力強く走り続けることから、「成長」「飛躍」「挑戦」の象徴とされています。本校の生徒たちも自ら考え、判断し、行動する主体性を大切にしながら、それぞれの夢や目標に向かって、たくましく挑戦し続けてほしいと願っています。昨年は、学校行事や教育活動において、多くの保護者の皆様にご参加、ご協力をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。本年も家庭と学校がしっかりと連携しながら、生徒一人一人の可能性を伸ばす教育を進めてまいります。引き続き、本校教育へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

令和8年生徒会始動

2学期終業式の日に、新生徒会役員の生徒たちに任命状を渡しました。生徒会副会長、書記、各部委員長に任命された20名は任命状とともに責任の重さをかみしめたことと思います。今年の生徒会のスローガンは「初志貫徹～想いをカタチに～」です。「初志貫徹」という言葉には、生徒一人ひとりが夢や目標をもち、最初から最後までその思い（気持ち・考え）を貫き通すという強い意味が込められています。また、サブテーマ「想いをカタチに」には、生徒一人ひとりの思い（気持ち・考え）を達成するために、様々な活動を行い、カタチ（成果・行動）にしていく生徒会を目指すという意味が込められています。今年のスローガンから感じ取れるのは、自分たちで決めた志に責任をもち、困難の中でも誠実にやり抜く学校をつくろうという決意が伝わります。同時に「なぜこの学校をよくしたいと思ったのか」、「何を変えたいと考えたのか」という原点を忘れない生徒会でありたいというメッセージも感じられます。全校生徒が一丸となって「自分で決めたことを投げ出さない」、「自分たちの判断に責任をもつ」という意識で生徒会活動に参画していけば、本校の学校教育目標である「夢に向かって たくましく 挑戦する生徒の育成～自律・協働～」につながっていきます。

スタートライン

本日、1月16日（金）に行われた生徒総会に向けて、9日（金）6時間目に各クラスで学級討議が行われました。まず初めに生徒会長が生徒会活動の方針を説明し、次に本部と各専門部から年間計画及び月別目標について、趣旨の説明がありました。その後、各クラス総務の指示で議案書について意見を出し合いました。実行するのは、全校生徒一人一人です。目標達成のカギは当事者としての意識がどれだけでもてるかです。

今日の討議はまさにスタートラインでした。生徒会活動は民主主義を体験し学ぶ場です。今年の方針を決める大切な議論の場において、大切なことは3点です。①友達の意見をよく聞くこと。少数派の意見も尊重すること。②自分の考えを自分の言葉で伝えること。③みんなで決めたことを守ること。



受験に向けて

本格的な受験シーズンに入りました。3年生の教室では、入試前の面接練習が本番さながらに実施されていました。冷たい空気の中、緊張の面持ちで背筋を伸ばして面接に向かう姿に成長を感じました。自分の考えを言葉にして伝えることは簡単ではありません。しかし真剣に向き合うこの経験は進路選択だけでなく、これからの人生にとって、大切な一步となるはずです。全職員で3年生の挑戦を応援しています。



3学期始業式(校長講話)で伝えたこと

今日は「アルケミスト 夢を旅した少年」という本を通して私が学んだことをもとに話をしたいと思います。この本と出会いは、毎月学校に送られてくる一冊の雑誌をパラパラとめくっていたら、前回WBCで日本代表の監督を務めた栗山英樹さんが、この本を紹介していたことがきっかけです。

主人公の少年サンチャゴは、羊飼いをしながら生きていました。ある夢をきっかけに、「宝物を探す旅」に出ます。しかし旅は順調ではありません。その旅の途中で、だまされたり、失敗したり、努力が無駄に思えるときもあります。それでも少年は、「この経験には意味があるはずだ」と考えます。物語の中で印象に残ったのは、「人が本当に何かを望むとき、全宇宙が協力して、夢を実現するのを助ける」、「夢を追う途中で出会う困難は、夢をあきらめさせるためではなく、成長させるためにある」という言葉です。ここで大切なのは、夢は楽しいことだけではない。夢は困難を乗り越える過程そのものだということです。うまくいかないとき、すぐに「無理だ」と思っていないか。失敗したとき、「向いていない」と決めつけていないか。サンチャゴも、何度も立ち止まりました。でも「やめなかった」ことで、自分の本当の宝物に出会いました。私はこの本から夢は無理に見つけるものではなく、信じて歩き続けた人に、あとから意味をもって現れるものだということを教わった気がします。

栗山さんはこの本の紹介の最後に、このようなことを言っています。「人生において重要な決断をしなければならないときが何度か訪れます。例えばプロ野球選手なら、フリーエージェントの権利を得て他球団と交渉したり、メジャーリーグを目指したりするタイミングがあります。その際、ぼくは選手たちに『あなたが決めてください。』と伝えます。『周囲の人やエージェントが言うから』ではなく、自分で決めたことなら、あなたが野球の神様が応援してくれる。あなたが本当にやりたいことなら、みんなが応援しますよ、ということです。これはまさにアルケミストの言葉と重なるのです。ぼくはこの年齢になっても一瞬迷ったり、『こうあるべきでは?』という考えにとらわれたりするので、そのたびにこの本を思い出しています。『アルケミスト』を人生の早い段階で読んでおくと、自分らしく悔いなく生きるために、とてもプラスになるように思いました。」

3年生はこれから受験に向かいます。アルケミストが教えてくれるのは、夢に向かう道は、一直線ではないということです。回り道や失敗は、夢から遠ざかっている証拠ではありません。むしろ、本気で進んでいるからこそ、迷いや壁に出会います。主人公の少年が最後に手に入れた宝物はお金や物だけではありませんでした。自分で決め、あきらめずに歩き続けたという自信でした。不安を抱えながらも逃げずに向き合った経験は、これからの人生を支える確かな力になります。

これからの3ヵ月、1年生は2年生に、2年生は3年生に、3年生は高校生になるための準備です。自分の心が「やってみたい」と感じる声を大切にしてください。

引用文献：PHP 1月号、パウロ・コエーリョ（1997）『アルケミスト 夢を旅した少年』（角川文庫）